

令和6年度第1回習志野市産業振興審議会 会議録

1 開催日時 令和6年6月6日(木)午後7時00分～午後8時30分

2 開催場所 習志野市庁舎 GF(グラウンドフロア) 会議室 A・B

3 出席者

【会 長】	習志野商工会議所	竹谷 嘉夫 氏
【副会長】	習志野市商店会連合会	司茂 和彦 氏
【委 員】	連合千葉総武地域協議会	上田 健治 氏
	会社役員	高橋 博雅 氏
	習志野市まちづくり観光推進協議会	金子 正 氏
	千葉県中小企業診断士協会	川村 浩司 氏
	日本大学生産工学部	山岸 輝樹 氏
	東邦大学理学部	佐藤 文明 氏
	千葉工業大学情報科学部	熊本 忠彦 氏
	市 民	今井 克一 氏
	市 民	伊藤 薫 氏
	学識経験者	伊藤 稔 氏

【オブザーバー】

習志野商工会議所	原田 真一郎 氏
----------	----------

【事務局】	協働経済部	部長	根本 勇一
	協働経済部	次長	小倉 一美
	協働経済部(産業振興課)		
		課長	大竹 博和
		係長	小野瀬 悠一
		係長	石橋 正崇
		係長	近藤 孝洋
		主任主事	高橋 良介
		主事	石井 祐二郎
		主事補	大森 栞

4 議 題

- (1) 会議の公開(非公開)
- (2) 会議録の作成等
- (3) 会議録署名委員の指名
- (4) 報告
 - (1) 産業振興計画(令和2年度～7年度)の中間実績評価
- (5) その他(事務連絡等)

5 議事内容

- (1) 会議の公開(非公開)

【竹谷会長】

ただいまから、令和6年度第1回習志野市産業振興審議会の会議を開会する。

本会議は規定により、過半数である委員8名以上の出席が成立要件となっているが、ただいまの出席委員は12名である。よって本会議は成立している。

はじめに、会議の公開についてお諮りする。

本日の会議は、「習志野市審議会等の設置及び運営等に関する指針」により、原則公開となっている。ただし、内容により、公開・非公開の判断が必要となった際は、その都度お諮りすることとするが、よろしいか。

《 異議なし 》

それでは、そのようにさせていただく。

なお、本日の内容に非公開事項になると思われる案件はない。また、傍聴者については、定員に達するまでの間は、入口でお配りした注意事項を守るようお願いした上で、随時傍聴希望者の入室があるので、あらかじめ御承知おき願う。非公開となった場合は、指示に従っていただくこととする。本日は今のところ傍聴希望者はいない。

- (2) 会議録の作成等について

【竹谷会長】

次に、会議録の作成等についてお諮りする。

会議録については要点筆記とし、会議名、開催日時、開催場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載した上で、市ホームページ及び市役所グラウンドフロアの情報公開コーナーにおいて、公開したいと考えるが、これに御異議ないか。

《 異議なし 》

御異議ないようなので、そのように取り扱うことに決定する。

(3)会議録署名委員の指名について

【竹谷会長】

次に、会議録署名委員の指名についてお諮りする。

会議録の作成に当たりまして、正確性、公正を期するため、会議録署名委員を私から指名させていただきたいが、御異議ないか。

《 異議なし 》

異議なしと認める。それでは、本日出席している名簿順に、高橋委員、金子委員を指名させていただく。

(4) 報告について

【竹谷会長】

それでは、報告事項に移らせていただく。

報告事項(1)、産業振興計画 令和2年度～7年度の間の実績評価について、事務局から説明願う。

【事務局／大竹課長】

はじめに配布資料を確認させていただく。

まず、産業振興計画の中間実績評価、A3で7枚綴りの14ページのもの。続いて、目標達成度と次期計画への方向性について、A4で1枚のもの。そして、前回会議でお配りした現産業振興計画の3点となる。

昨年度に開催した前回の会議では、次期計画の策定に向け、現計画の内容と令和2年度から令和4年度までに実施した事業の実績についてご報告をさせていただいた。本日は前回の続きとなるが、令和4年度までの実績を中間実績として評価したのでそれをお示ししたいと考えている。また、各指標については、次期計画へ継続していくものか、内容を変更、あるいは修正していくのかといったおおまかな方向性についても記載させていただいている。

委員の皆さまに御意見を賜りたいと考えているので、よろしくお願いします。

はじめに資料の③、産業振興計画の中間実績評価をご覧いただきたい。この表は前回の会議でお配りした資料を1つにまとめたものである。前回ご指摘いただいた実績値に対する令和4年度の市の評価を付記して、次期計画への指標の方向性をお示ししたものとなっている。

資料の構成としては、1ページ目をご覧いただきたい。成果指標を示した一番上の表とその表から伸びた矢印、その先に成果指標を達成するための主な取り組みとして中間指標の表、さらにその下に中間指標を達成するための具体的な各施策の表。この3つの表で構成している。

次に、別紙「目標達成度と次期計画への方向性について」は、成果指標及び中間指標の評価方法として、表に記載しているとおり目標の達成率に応じて5段階で市の評価をさせていただいたところである。

また、次期計画への方向性については、「継続」、「変更して継続」、「終了」の3つから選択して記入をしている。

それでは資料③の1ページ目から説明をさせていただく。

資料1ページ目は、7つある市の方針の1つ目となる。

第1節 経営の安定化支援である。こちらの成果指標達成のために、主な取り組みの一つとして中小企業の育成を掲げている。この中間指標の主な取り組みの関連する施策としては、一番下の表の(1)商工会議所補助事業から(10)経済動向調査の実施までを施策として実施してきた。

その結果、中間指標の①商工会議所会員数については1,825事業所を目標値としていたが、令和4年度の現状値は1,765事業所となっている。感染症や物価高騰対策の各施策により中小企業の経営支援を図ってきたが、事務所の移転や統廃合、また後継者不足の廃業等により、基準値を下回る形の数値となっていることから、「D」評価とさせていただいた。

中間指標の2番目、地域経済対策事業登録事業者数については、目標値を200事業者としていたが、令和4年度での実績は198事業者となっている。公共施設の小規模な修理・補修の際に積極的に登録事業者への発注をしており、ホームページ・広報による周知と合わせて事業者の登録数が増加につながっていることから、「B」評価とさせていただいた。

続いて3番目、住宅修繕あっせん制度あっせん件数については、目標値の130件に対して、現状値は108件となっている。件数は減少となったが、近年は100件程度の実績で推移している状況のため、「D」評価とさせていただいた。

続いて、2ページ目をご覧いただきたい。

主な取り組み②相談体制の充実になる。この主な取り組みに関連する各施策としては、(1)商工会議所補助事業から(4)創業に係る総合相談窓口に取り組んできた。

中間指標①としては、交流オフィスの利用件数である。目標値7件に対して3件、コロナ禍での交流オフィスの利用件数の減少ということで、評価は「D」とさせていただいた。

続いて、②の技術相談件数については、目標値7件に対して6件の実績である。交流オフィスよりもさらに具体的かつ詳細な相談について、堅調に推移していることから「B」評価とした。

主な取り組み③資金調達の支援について、主な取り組みに関する各施策としては、(1)習志野市中小企業資金融資制度から(6)信用保証料に対する補助といった事業を実施してきた。

中間指標としては、資金繰りの円滑化を目的とした資金の融資件数を目標値 32 件と掲げていたが、令和 4 年度の現状値としては 180 件となっている。市制度融資の件数については、これまで減少傾向にあった中で、令和 2 年度以降、感染症や物価高騰の影響を受けて融資件数が増加している状況である。社会情勢の変化に直面する中小企業等への融資需要に対する支援が図られたものであるが、現状値と目標値での評価とし、「D」評価とさせていただいた。

1 枚戻って1ページ目をご覧ください。

第1節 経営の安定化支援の成果指標としては、①市内事業所数ということで、目標値を 4,270 事業所を掲げていたが、現状値としては 5,033 事業所となっている。これについては経済センサスの数値を基にしているところであるが、令和元年度の経済センサスの基礎調査の調査方法が変更になったことから、この目標値と現状値が比較できない状態となっている。そのため、調査項目の変更から評価は出来ずという形をとらせていただいた。

続いて②利子補給金の交付事業者数である。こちらは目標値を 309 事業者と掲げ、現状値は 638 事業者となっている。利子補給の交付推移についても融資と同様減少傾向にあったが、感染症・物価高騰等の影響により融資件数が増加したことから、利子補給件数についても増加した状況となった。社会情勢の変化に対応した形で中小企業者への支援が図られたものではあるが、現状値と目標値での評価として「C」評価とさせていただいた。

続いて 3 ページをご覧ください。

第 2 節 商工業の振興である。主な取り組みの一つとして、地域一体となったまちづくりを掲げ、中間指標としている。その主な取り組みに関連する各施策については、(1)商工会議所補助事業から(9)プレミアム付き商品券事業の実施に取り組んできた。中間指標としては、地域と行う各商店街のイベント数 60 件を目標としていたが、現状値は 39 件となっている。新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント自体が開催できなかったという状況もあって、「D」評価とさせていただいた。

②の高度情報化社会の変化に即した啓発活動については、目標値は 4 件、これに対して 8 件の現状値である。令和 2 年度はキャッシュレス還元キャンペーン、令和 4 年度にはプレミアム付き商品券のデジタル化といった事業を実施し、事業者向け説明会と消費者向け説明会を開催し、キャッシュレス決済の導入促進を図った。このようなことから「S」評価とさせていただいた。

続いて、主な取り組みの②魅力ある商店街づくりの推進である。こちらの主な取り組みに関連する各施策として、(1)商業活性化事業から(4)産業振興基本条例の推進に取り組んできた。中間指標①商店会の会員数は、目標値を 382 店舗としていたが、388 店舗が現状値となっている。商店会ごとに会員加盟を働きかけている中で、新店舗出店や廃業等によって店舗数は横ばい状態が続いているが、目標値を超える形となっているので「S」評価とさせていただいた。

②イルミネーション事業に参加する商店会数は、目標値を 4 商店会としているが、現状値は 3 商店会となっている。商店街のイメージアップや集客につながることから、今後も実施する商店

会の増加に取り組んでいきたい。評価としては「B」評価とさせていただいた。

続いて、③まちゼミを実施する商店会数は、目標値を 13 商店会としていたが、コロナ禍で各商店会単位での実施が困難となり、現在は市全体を対象として個別の事業者単位での実施となっていることから、実施回数 34 回という実績の表記をさせていただいている。実施回数としては概ねコロナ禍以前の水準に戻ってきている状況であるが、目標値と現状値の比較ができないことから、評価せずという形をとらせていただいた。

続いて 4 ページをご覧いただきたい。

主な取り組みの③付加価値の高いものづくりの支援。主な取り組みに関連する各施策については、(1)産学官連携事業から(4)習志野市中小企業資金融資制度に取り組んだ。

中間指標「習志野グローバルものづくりガイド」アクセス数は、目標値 40,000 件に対して、37,406 件のアクセス数があった。ものづくりに携わる事業者との情報発信に対する関心の高さから、アクセス数は堅調に推移している状況である。評価は「B」評価としている。

交流オフィス利用件数の目標値 7 件に対して現状値は 3 件。また、技術相談件数の目標値 7 件に対して、現状値 6 件。いずれも第 1 節と同様の内容で再掲となるため、説明を省略させていただく。

④新たな設備の導入を目的とした資金の融資件数は、目標値 30 件に対して、現状値は 15 件である。本市の中心的な存在である中小企業が、販路拡大や新たな設備投資を実施しやすい環境を構築するため、特に金融面として、本市制度融資とそれに伴う利子補給といった支援を、引き続き展開することが重要である。評価は「C」評価とさせていただいた。

3 ページに戻って、第 2 節 商工業の振興の成果指標①は、市内事業所数である。こちらについては、第 1 節と同様の内容で再掲となるため、説明を省略させていただく。

②市内法人数は、目標値 3,500 法人に対して、現状値は 3,394 法人となっている。コロナ禍の影響がありながらも堅調に推移していることから、「B」評価としている。

続いて 5 ページをご覧いただきたい。

第 3 節 都市農業の振興である。主な取り組み①は、農業従事者の確保・育成としている。その主な取り組みに関連する各施策については、(1)農業経営の効率化支援から(4)農業用資材緊急支援事業に取り組んできた。中間指標は、ちばのオリジナルブランド産地づくり支援事業によるブランド化実施数として、目標値 6 個に対して現状値は 6 個となっている。これまでは習志野市産人参の PR を中心に行ってきたが、令和 4 年度より新たに若手農業者グループが製造販売している習志野市産トマトジュースの PR 支援として梱包材やデザイン料の補助を実施した。目標値と現状値が同数であることから、「S」評価とさせていただいた。

主な取り組み②市産市消の推進については、関連する各施策を(1)農業祭など各種イベントにおける地元農産物の供給から(3)キャロット計画の推進を実施してきた。中間指標である農業祭の開催は、目標値 1 回を掲げ、令和 4 年度農業祭を開催することができた。このようなことから「S」評価とさせていただいた。

続いて、主な取り組み③市民が農業に親しむ機会の創出については、関連する各施策を(1)

市営市民農園の運営から(2)民営市民農園の開設支援に取り組んできた。中間指標を市営市民農園の利用率とし、目標値 97%に対して現状値は 96%である。市営市民農園は利用者の入れ替えにより、利用料の収入ベースで全募集区画数 158 を超える利用者となっており、効率的な活用がなされていることから、「S」評価とさせていただいた。

第3節 都市農業の振興の成果指標は、認定農業者数である。目標値 26 人に対して、現状値 25 人となっている。市内の農業者は減少傾向にあり、認定農業者についても、これまで本市農業を担ってきた農業者が高齢等を理由に更新を行わないケースがある。このような中でも若手農業者の認定や後継者を含めた親子共同で認定するなどして、目標値並みの人数を確保できた状況である。現状値に対する評価は「S」評価とした。

続いて7ページをご覧ください。

第4節 観光の振興である。主な取り組み①は、観光力の強化としている。その主な取り組みに関連する各施策として、(1)観光資源の発掘・創出から(5)まちづくり観光を推進する体制づくりに取り組んできた。

中間指標①は、市HP等で公開しているまち巡りコース数を掲げ、目標値 16 コースに対して現状値は 14 コースとなっている。習志野市観光ガイドマップに7コース、ならしの駅からマップに7コースの計 14 コースを公開しており、評価は「B」評価とさせていただいた。

中間指標②は、ドラマ・映画等の撮影誘致回数であり、目標値 50 回に対して現状値は 42 回である。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の数値が大きく下がっているが、その後はコロナ以前と同程度まで持ち直してきており、評価は「C」評価とした。

続いて、主な取り組み②地域資源の活用については、関連する各施策を(1)ふるさと産品の充実と業者会の支援から(4)ご当地キャラクター「ナラシド♪」の活用に取り組んできた。

中間指標①ふるさと産品認定数は、目標値 55 点を掲げ、現状値は 45 点となっている。1 者の廃業に伴い3点が取り消しとなり、45 点となった。ふるさと産品は平成28年度から令和4年度まで新規認定の申請が無い状況である。評価は「D」評価とさせていただいた。

②習志野ソーセージを販売・提供する行事数については、目標値 4 件に対して現状値 3 件である。きらっと(習志野市民まつり)、習志野ドイツフェア、たなフェス(京田辺市民まつり)で販売を実施している状況である。また、前回上田委員からお話をいただいた今年度のメーデーにおいて、チラシ等の配布をさせていただいたが、今後の参加についても改めて協議させていただきたい。評価は「B」評価とした。

③「ナラシド♪」グッズ数は、目標値 16 点に対して現状値 17 点である。「ナラシド♪」の知名度が定着してきたことから、グッズ数は順調に伸びており、「S」評価とした。

続いて、8ページ目をご覧ください。

主な取り組み③広域連携・交流について、関連する各施策は(1)都市間交流事業から(2)千葉ベイエリア観光連盟やちばプロモーション協議会への参画である。中間指標①を都市間交流市村との相互参加行事数とし、目標値 4 回に対して現状値は 1 回である。新型コロナウイルス感染症の拡大により、全国的に祭り・イベントが開催自粛となった中で、令和4年度は習志野市民

まつりのみの参加となった。評価は「C」評価とさせていただいた。

中間指標②は、千葉おもてなしSHOPガイドの登録店舗数である。目標値は 100 店としていたが、東京五輪のインバウンドを目的として立ち上げたものの、東京五輪が無観客開催となったことから、船橋市とともに撤退することとなったため、評価は無しとしている。

1 ページ戻って 7 ページをご覧ください。

第 4 節 観光の振興の成果指標①は、市内観光入込客数である。目標値 900,000 人に対して、現状値は 527,977 人となっている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるイベントの中止等で、観光入込客数があまり伸びなかったことから、現状値に対する評価は「D」評価とした。

成果指標②は、市内宿泊客数である。目標値 40,000 人に対して、現状値 35,243 人となっている。テレワークに関する設備やサービスの増加により、観光地やリゾート地で働く「ワーケーション」という働き方が生まれたことや、コロナ禍でインターネット等を使用する人が増加したことに伴い、Web・SNS マーケティングが活性化されたこと、令和 2 年度に京成津田沼駅前のビジネスホテルや新習志野駅の宿泊温泉施設がオープンしたこと等により、宿泊客数は増加している。このことから、評価は「C」評価とした。

続いて 9 ページをご覧ください。

第 5 節 創業しやすい環境の整備である。主な取り組み①は、創業希望者への支援としている。その主な取り組みに関連する各施策として、(1)創業支援事業(ならしの創業塾等)と(2)習志野市中小企業資金融通制度に取り組んできた。

中間指標①は、創業塾等の実施回数を掲げ、目標値 12 回に対して現状値は 8 回となっている。創業塾事業を年 1 回、創業スクールを年 2 回と当初の予定どおり実施されており、評価は「B」評価とさせていただいた。

中間指標②は、創業塾等の受講者数であり、目標値 193 人に対して現状値は 250 人である。先程と同様に、創業塾事業を年 1 回、創業スクールを年 2 回と当初の予定どおり実施している中で、「S」評価とした。

中間指標③は、創業支援を目的とした資金の融資件数である。目標値 19 件に対して、現状値は 8 件である。設立法人数の伸びが低下していることに伴い、創業支援資金の件数も減少傾向になっており、「C」評価とした。

続いて、主な取り組み②創業機運の醸成については、関連する各施策は(1)起業家創出・育成事業と、(2)再チャレンジ支援講座の実施に取り組んできた。

中間指標①、セミナー等の開催回数は、目標値 5 回を掲げているが現状値 0 回となっている。認定創業支援等事業計画に定める「創業機運醸成事業」については、コロナ禍により未実施であるため、「D」評価とした。

②セミナー等の受講者数は、目標値 150 人に対して現状値 0 人である。先程と同様コロナ禍により未実施であるため、評価は「D」評価とした。

③再チャレンジ支援講座の実施回数は、目標値 6 回に対して現状値 6 回である。就労に向けて意欲と能力のある女性が活躍できる社会を目指し、再就職、起業、自己啓発等を希望する女性の意識を高め、具体的な行動プラン設計のための基軸づくりを 3 回にわたって開催した。また、

令和4年4月に決定した女性デジタル人材育成プランに基づき、3講座のうちの1回をデジタルスキルに関する内容にするなど、創業のしやすい環境整備に努めた。評価は「S」評価とした。

続いて、10ページ目をご覧いただきたい。

主な取り組み③産学民官連携の推進について、関連する各施策は(1)産学民官連携事業から(3)習志野市中小企業資金融資制度を実施してきた。

中間指標①交流オフィス利用件数と、②技術相談件数については、第1節及び第2節と同様の内容で再掲となるため、説明を省略させていただく。

中間指標③は、ビジネスマッチングイベント出展企業数である。目標値3件としていたが、現状値は0件である。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大規模な展示会の開催が無かったことから、「D」評価としている。

その他関係機関の取り組みとして、(1)創業ワンストップ相談窓口から(4)アドバイザー派遣制度・共同開発助成制度の活用に取り組んでいただいている。中間指標としては、ワンストップ相談窓口利用者数であり、習志野商工会議所に担っていただいているところである。目標値35件に対して、現状値は26件である。認定創業支援等事業計画に基づき、創業に関するワンストップ相談窓口を習志野商工会議所内に設け、創業者及び創業希望者に対して情報提供等の支援を実施した。評価は「C」評価としている。

1ページ戻り、9ページ目をご覧いただきたい。

第5節 創業しやすい環境の整備の成果指標は、設立法人数を掲げている。目標値1,600件に対して、現状値は450件となっている。コロナ禍の影響により、創業・起業が控えられ、設立法人数が伸びなかったことから、評価は「C」評価とした。

続いて11ページをご覧いただきたい。

第6節 働きやすい環境づくりである。主な取り組み①は、安心して働ける環境づくりとしている。その主な取り組みに関連する各施策として、(1)労働・雇用制度の周知・啓発から(7)くるみん認定制度の推進に取り組んできた。

中間指標①は、中小企業退職金共済に加入している市内事業所数を掲げ、目標値206事業所に対して現状値は169事業所となっている。加入の意向は事業者によるところであるため確実な伸びは望めないものの、広報習志野を活用した周知啓発に取り組んでいる。評価は「D」評価とさせていただいた。

中間指標②は、中小企業退職金共済に加入している市内従業員数であり、目標値2,504人に対して現状値は1,743人である。先程と同様、加入の意向は事業者によるため確実な伸びは望めないものの、広報習志野を活用した周知啓発に取り組んでいる。評価は「C」評価とした。

中間指標③は、優良事業者等の紹介件数であり、目標値6件に対して、現状値は3件である。「事業所表彰・認定・登録制度パンフレット」を令和2年度に更新し、各種啓発講座等で配布し、事業所並びに市民へ周知を図った。評価は「D」評価とした。

続いて、12ページをご覧いただきたい。

主な取り組み②安全で健康に働ける環境づくりについて、関連する各施策を(1)労働・雇用制度の周知・啓発から(4)働く場におけるハラスメント防止に向けた啓発に取り組んできた。

中間指標として、優良事業者等の紹介件数は、目標値 4 件に対して現状値 17 件となっている。国が実施する健康経営優良法人について、労働人口の減少が進むなか、優秀な人材の確保は企業の存続と成長を左右する要因の一つと考えられ、健康経営優良法人に認定された企業は、労働者にとって魅力的で働きやすい職場であるという強力なアピール材料となることから、実績が伸びたものである。評価は「S」評価とさせていただいた。

主な取り組み③労働者への支援については、関連する各施策を(1)労働者向けセミナー等の開催から(3) パラレルキャリアに関する講座の実施に取り組んできた。

中間指標①として、労働者向けイベントの開催回数は、目標値 6 回を掲げ現状値 12 回となっている。千葉県ジョブサポートセンターと共催による再就職支援セミナーを実施した結果であり、評価は「S」評価とした。

②労働者向けイベントの参加者数については、目標値 240 人に対して現状値 294 人である。先程と同様で実績が伸びており、評価は「S」評価とした。

1 ページ戻り、11 ページ目をご覧ください。

第 6 節 働きやすい環境づくりの成果指標は、①からだの健康づくりに取り組んでいる企業であり、目標値 85%に対して、現状値は 69.2%である。直近の調査は平成 30 年度であり、評価にあたっては平成 30 年度の数値を引用しており、次回の調査は令和 6 年度を予定していることから、現時点で基準値と現状値が同じであるため、評価は見送ることとした。

②こころの健康づくりに取り組んでいる企業は、目標値 85%に対して、現状値は 68%である。評価については先程と同様である。

③余暇時間の確保に取り組んでいる企業については、目標値 55%に対して、現状値 56.5%となっている。直近の調査は令和 3 年度であり、評価にあたっては令和 3 年度の数値を引用とし、評価は「S」評価とした。

④福利厚生充実ができていない企業は、目標値 35%に対して、現状値 26.3%である。これについても直近の調査は令和 3 年度であり、評価は令和 3 年度の数値を引用し「D」評価とした。

続きまして 13 ページをご覧ください。

第 7 節 就労・雇用機会の拡大である。主な取り組み①は、求職者への支援としている。その主な取り組みに関連する各施策として、(1)キャリア教育の推進から(6)ひとり親の就労支援に取り組んできた。

中間指標①は、就労支援イベントの開催回数を掲げ、目標値 48 回に対して現状値は 23 回となっている。コロナ禍によるイベント等の開催に制約があり、予定していたイベントが開催できなかったが、就職希望者や就職活動中の学生及び若年求職者を対象に、再就職支援セミナー、合同企業説明会 IN ならしを開催した。評価は「C」評価とさせていただいた。

中間指標②は、ふるさとハローワークならしの利用者数であり、目標値 10,025 人に対して現状値は 5,380 人である。コロナ禍による窓口利用減少の他、若者のハローワーク離れが影響していること、併せて、パソコンやスマホによる求職検索といった、ハローワークインターネットサ

ービスが普及し、窓口へ来所する必要性の減少も影響している。評価は「D」評価とした。

中間指標③は、障がい者地域共生協議会就労支援部会の開催回数であり、目標値 12 回に対して、現状値は 9 回である。習志野市障がい者地域共生協議会の専門部会である雇用促進部会を開催し、企業視察や広報紙の発行、また、企業に対するアンケート調査に基づき、障害福祉サービス事業所との意見交換会等を実施した。評価は「A」評価とした。

続いて、14 ページをご覧ください。

主な取り組み②人材の確保については、関連する各施策を(1)求職者と企業とのマッチングの推進から(9)介護事業所における人材の確保に取り組んできた。

中間指標①として、マッチングイベントの開催回数は、目標値 30 回を掲げ、現状値 6 回となっている。訪問型サービス、通所型サービス、その他の生活支援サービスなどの介護予防・生活支援サービスに加え、人員基準などを緩和したサービスや住民主体のサービスなどの多様な主体によるサービスの担い手を養成する研修を実施し、修了者と事業所とのマッチングを実施した。評価は「D」評価とさせていただいた。

中間指標②は、障がい者地域共生協議会就労支援部会の開催回数であり、第 6 節と同様の内容で再掲となるため、説明を省略させていただく。

主な取り組み③近隣自治体等との広域連携については、関連する各施策(1)就労・雇用支援セミナー等の開催から(3) ふなばし地域若者サポートステーション事業の実施に取り組んできた。

中間指標①として、共催・後援の割合は、目標値 100%を掲げ、現状値 100%となっている。就労・雇用関連イベントにおいて、国・県・他自治体からの共催・後援の申請は全て実施している状況であり、評価は「S」評価とした。

②共催・後援等の件数については、目標値 60 件に対して現状値 23 件である。コロナ禍によるイベント等の開催に制約があり、予定していたイベントが開催できなかったが、就職希望者や就職活動中の学生及び若年求職者を対象に、再就職支援セミナー、企業説明会 IN ならしのを開催した。評価は「C」評価とした。

1 ページ戻って 13 ページをご覧ください。

第 7 節 就労・雇用機会の拡大の成果指標は、①有効求人倍率であり、目標値 1.49 倍に対して、現状値は 0.74 倍である。経済状況等の社会的要因が大きく左右するため、確実な上昇は難しいものとして、評価は「D」評価とした。

②完全失業率(習志野市)は、目標値 2.2%に対して、現状値は 3.6%である。先程と同様に、経済状況等の社会的要因が大きく左右するため、確実な上昇は難しく、評価は「C」評価とした。

③完全失業率(千葉県)について、目標値 1.5%に対して、現状値 2.5%となっている。こちらについても、先程の有効求人倍率や完全失業率(習志野市)と同様に、経済状況等の社会的要因が大きく左右するため、確実な上昇は難しい。評価は「D」評価とした。

以上が報告事項となるが、本計画においては、成果指標が 15、中間指標が 48 ある中で、達成率 50%未満のものが 31 となっている。令和 4 年度については、新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響を大きく受けた年度であり、現在においても人材不足や物価高騰など産業活動

を取り巻く環境は依然厳しい状況であるが、本計画に掲げた施策を推進し、目標達成に向けて取り組んでいきたい。

【竹谷会長】

それでは、事務局から説明があったことについて、皆様からの御意見・御質問を伺う。

なお、御質問等については随時、事務局からお答えいただきたい。

また、本日は先ほども御紹介のあった習志野商工会議所からもオブザーバーとして出席しているので、御質問・御意見をいただければと思う。

それでは、御質問・御意見ある方は挙手をお願いします。今井委員どうぞ。

【今井委員】

資料の見方を確認させていただきたい。

目標値をこの計画期間中の累計値としているものが幾つかあるが、その場合の現状値は、これまでの3年間の累計値ということで理解してよろしいか。

【事務局／大竹課長】

目標として累計で掲げているものについては、累計値を現状値としている。

【今井委員】

承知した。

【竹谷会長】

他に御意見ある方は。伊藤(稔)委員、どうぞ。

【伊藤(稔)委員】

多くの分野に渡っていろいろご苦労されているかと思うが、何点かお伺いしたい。

まず中小企業資金融資制度について、42億円の融資額というのを掲げているが、県の制度融資とどういった違いがあるのか。習志野市の産業振興という目的なので、市としてのこういうものを発展させていきたいといった特徴があるものなのかをお聞きしたい。或いはこういう低金利の時代なので利子補給も大変だと思うが、融資制度の利率を県よりもさらに低くしているのか。

【事務局／大竹課長】

習志野市の制度融資は、単独で実施している。提携銀行、つまり覚書を締結している銀行に対し、全体として6億円の資金を預託して、その7倍に当たる42億円の範囲内の制度融資の運用をお願いしているところである。市の制度融資については、提携している銀行と協議をした中で利率設定しており、実際に県の利息を加味しているものではない。

【伊藤(稔)委員】

できれば市の特徴として、こういう中小企業を育てていきたいとか、こういう業者を育てたいとかの目的で重点的に融資をしていただくのがよろしいのかなと思うので、意見として申し上げる。

それから、観光入込客数の関係について、コロナ禍の状況の中で、評価の理由に挙がっている5施設のうち下3つは観光的な要素が大きいんだと思うが、国際水泳場は施設の老朽化、或いは都内にオリンピックのための水泳場ができたために今後は多くの入場者が期待できないということもあるし、文化ホールも閉めてしまうということで、今後はこの2施設について観光入込客数が期待できない。だから入込客数を単純に目標数値として設定するということではなく、どういう観光を目指していくのか、先程観光資源が少ないという話もされていたが、その点を考えていただければということで、意見として申し上げる。

それからもう1つ。農業のところ市民農園について、これは96%を100にしたいということだが、藤崎に市がやっているのか民間でやっているのかちょっとわからないが、農園に対して非常に大きな需要があるっていうのを見て感じている。農地に関してはもうマックスまでおそらく行っているんだろうなと思う一方で、今後農業後継者がいないという状況の中で、市がその拡充に向けての施策を打っていくべきという感じがする。農地法の関係などいろいろあろうかと思うが、関係部局と協議をしていただき、こういう風に市民の方に農地を増やしていくことを施策としてアピールしていったらいいかなと思う。これも意見として。

それから最後に、11ページの上段の表の3つ目、③、これは余暇時間の確保に取り組んでいる企業ということで、「S」評価になっているが、これの中身を見てみると、事業者へ周知しているかどうかということの内容になっている。周知することが目的であればもう少し目標値が高くていいのかなと。働いている方にとってみて、習志野市が余暇時間の確保に、中小企業に対して積極的に取り組んでいて、成果として十分だと認識しているようなことを、ちょっと思われかねないかなという感じがした。目標設定の問題があるのかわからないが、働いている立場からすると本当にそうなのかってちょっと疑問に思うなということで、お考えいただければと思う。長くなったが、以上である。

【事務局／大竹課長】

今いただいたご意見を含めて、関係部局と協議しながら今後目標値の設定とか取り組みについて検討して参りたい。

【竹谷会長】

ありがとうございます。他に何か御意見ある方は。上田委員、どうぞ。

【上田委員】

各資料を見ていても、かなりコロナに振り回された感じなのかなと思うが、12ページの中段の(4)に、各種ハラスメントに関する認識を深め被害防止を受けた啓発を実施したと書いてあるが、企業等に関してはコンプライアンス等で訴えれば、今は企業の中でのハラスメント行為は抑制されてきたのかなと感じている。その一方、最近ニュース等言われているのが、カスタマーハラスメントである。東京都、また国の方でこちらの方も対策が動き出していくという中で、働きやすい環境を作っ

ていくことが、企業の誘致や人材の獲得に繋がっていくと思う。そういったことから、カスタマーハラスメント対策を条例化していくことが、習志野市で働く人全体に関わってくることだと思うので、そういう考えを持って取り組んでいていただきたいという要望である。よろしくお願いします。

【竹谷会長】

ありがとうございます。他に何か御意見ある方は。熊本委員、どうぞ。

【熊本委員】

計画の中にふるさと納税に関する記述が無いことについて、伺いたい。

【事務局／大竹課長】

ふるさと納税については、部局が違うため、現行の産業振興計画の中には、含まれていない。ふるさと産品等を返礼品に使うなど、担当部局と相談して、次期計画の中で検討したいと思う。

【竹谷会長】

ありがとうございます。他に何か御意見ある方は。山岸委員、どうぞ。

【山岸委員】

1点教えていただきたい。14ページの第7節、就労・雇用機会の拡大に関して。主な取り組み②の中間指標①マッチングイベントの開催に関して6回と書いてあり、その下の関連する各施策に求職者との企業マッチングの推進の現状値が9回ってというのが書いているが、その理由の方を見ると、どちらかというと①に書かれている、高齢者施設等の求人に関わってくるものかなっていう風に見え、上下がちょっと捻じれて見えている。端的に言うと一番下の施策の方が頑張っているように見えるが、いかがか。

【事務局／大竹課長】

申し訳ございません。6回と9回の違いがすぐに確認できないので、改めて回答させていただきたい。

【竹谷会長】

ありがとうございます。他に何か御意見ある方は。熊本委員どうぞ。

【熊本委員】

今のところについて、目標値の見方が、累計値だったり、とある調査時点のものになっているものと、年度1年間の調査結果になっているものがある。例えば今のマッチングイベントは累計であったり、1ページ目の一番最初の市内事業者数調査時点の数字のようにも見えますし、基準というか、数値の計算の仕方が幾つかあるかのような感じがするが、その辺が資料だけではわからないので、もし本当にそういう数値の計算仕方違いがあるのであれば教えていただきたい。

【事務局／大竹課長】

ご指摘の通り、今回の目標値に関しては累計値であったり、実績であったりといったように、指標に関して個々に捉えている現状である。その中で、目標中央部の目標設定値と算出方法という部分に、累計値なのかあるいはその年度の数字なのかを記載している現状である。

【熊本委員】

目標値のところにスラッシュ期間とかスラッシュ年とか、見せ方に工夫があった方が良いかなと思う。

【事務局／大竹課長】

表の作成方法について、今ほどご指摘いただいたことを検討させていただきたいと思う。

【竹谷会長】

他に何か御意見ある方は。金子委員どうぞ。

【金子委員】

7 ページの一番目の項目について、先ほども指摘があったが、この施設が習志野市の観光という代表的なものなのか。習志野市はまちづくり観光という概念がある中で、観光施設に人が来たのが観光の流入であるという考え方は昔の観光地の考え方であり、習志野市の場合は都市型観光なので、人口増加を伴いながら、習志野市の魅力を伝えるような施設というのが、ここのデータには載っていない。また先程ご意見もあったが、習志野市が観光に対して、どんな方向性を持って、どこに力を入れてやっているかというのが見えてないと、ただ従来のように施設に人が来たということをもって観光をとらまえているとちょっと時代遅れになってしまうので、そこら辺をあわせて、この項目の内容のとらまえ方からちょっとご検討いただければと思う。

【事務局／大竹課長】

観光入込客数については、県の調査に基づいて実施しているものである。ご指摘があったことについて今後検討する中で、県の調査に基づくもの、または市独自のものにするのか考えて参りたい。

【金子委員】

あわせまして、インバウンドに対する考え方も入れていただければと思う。

【竹谷会長】

他に何か御意見ある方は。川村委員どうぞ。

【川村委員】

創業支援に関して、法人設立というのも目標値としてはあると思うが、実態とすると個人開業の方も多いと思う。評価としてどうやって資料を取るかの問題はあると思うが、例えば副業も含めて創業されている方もいると思うので、次回の評価指標の策定の中で、個人創業も含めて可能な限り評価の中に織り込んでいただくと、市の活性度合いなどの評価に繋がってくるんじゃないかなと思う。

それから創業支援するという形の中で、やはり今インキュベーションオフィスの希望とか、家賃補助も含めたものとか、そういう例えば創業支援の環境、ハード面の整備という形のものというのも目標や指標で掲げていただけると、習志野市が創業に明るい場所というようなイメージが付きやすくなると思うので、その辺を次期計画へ向けてご検討いただければよろしいのかなと。意見として受けとめていただきたいなと思う。

【竹谷会長】

ありがとうございます。他に何か御意見ある方は。佐藤委員どうぞ。

【佐藤委員】

先ほどの創業関連のところ、ちょっと気になっているのは、様々なセミナーがコロナ禍によって未実施となっているが、セミナーというのは対面でやらなきゃいけないのかなと疑問に思う。いろんな小学校とか、大学もオンラインでいろんな講義をやっていた。そういうセミナーとか講演会とかオンラインでやるというのは1つの開催方法であり、コロナ禍が終わった後でも、大学でもオンラインでやる仕組みってというのは生き残っていて効果的に運用されている。市役所の中でもオンラインでやるような場面が多分増えていると思うが、そういう意味で開催方法を見直していただくとか、或いはいろんなタイプの開催方法を提供して参加しやすくするとか、そういった取り組み方も検討していただければと思う。

【竹谷会長】

ありがとうございます。他に何か御意見ある方は。高橋委員どうぞ。

【高橋委員】

13ページ就労・雇用機会の拡大に関して、習志野市の完全失業率の基準値が平成27年度、それから現状値が令和2年の国勢調査ということで、千葉県の数値に比べて顕著に高いように思うが、これは何か習志野市として特殊な要因があるのか。単純に労働力人口に対して失業者の割合が多いという理解で良いかと思うが、今後、産業振興をしていくにあたって、雇用の問題は非常に大きいと思うので、それだけ労働力の供給要因があると見なして良いのかどうか、その辺がもしおわかりになれば教えてください。

【事務局／大竹課長】

完全失業率について、県の数値より習志野市の数値が高いという部分の理由については、今

現在把握できていないので、今後調査して回答させていただきたいと思う。

【竹谷会長】

他に何か御意見ある方は。伊藤(薫)委員どうぞ。

【伊藤(薫)委員】

7 ページの観光振興について。私はSNSで広報まちかど特派員さんの投稿を良く目にしているが、あのようなタイムリーな習志野市内のスポットの状況を伝えていただいたりとか、ふるさと産品の紹介だったりとか、とても観光面で役立っているんじゃないかなと思っている。それで、これから観光の振興についての取り組みを考えていく中で、若い人たちにどうやって習志野市に来てもらえるかっていうことを考えると、そういったSNSの活用についても考えていけば良いんじゃないかなと思う。

【事務局／大竹課長】

はい。ありがとうございます。SNSにつきましてはラインでの周知にも取り組み始めたところである。何か事業をやるときには、周知方法として、広報習志野及び市ホームページで従来からやっているが、それは見に来ていただければいけないという状況の中で、最近ではプッシュ型という形でラインを活用させていただいている。その他の媒体についても、また改めて研究したいと思う。

【竹谷会長】

ありがとうございます。他に何か御意見ある方は。今井委員どうぞ。

【今井委員】

この中間の評価は、4 年度の実績ということになると思うが、今はもう 6 月となり、5 年度の数値についても追ってまた提供していただけるということでよろしいか。

【事務局／大竹課長】

その通りである。各年度ごとに、最終的な評価については、皆さんに報告させていただきたいと思っている。

【今井委員】

先程ラインを使ったプッシュ型の周知という話があったが、私の方もラインをいつも拝見・活用している。例えば、まちゼミの実施とか、5 月あたりも各地で、色々な商店会が特徴を活かして開催されていたが、ああいったものを市の広報誌に取り上げていくことは、今後やっていく考えなのか。

【事務局／大竹課長】

先ほど申し上げたように、ラインという形で活用させていただいているが、広報習志野は各部局がいろいろ発行したい中で、基本的には市事業をメインとして発信していくという形となっている。

商店街さんや団体さん、こちらの発信については、担当部局とも確認して取り組んで参りたいと考えている。

【竹谷会長】

他に何かある方。よろしいか。特に無いようなので、本件に係る質疑は終了とする。

それでは、これをもって報告は終了とする。なお、会議終了後であっても、意見や質問をお受けいただけるとのことであるため、委員の皆さんにおいては、ぜひ積極的にお出しいただければと思う。事務局は、委員の皆さんからの意見や評価を十分に活用し、次期計画の策定作業を進めていきたい。

(5) その他について

【竹谷会長】

それでは最後に、「その他」として、事務局から連絡等願います。

【事務局／大竹課長】

本審議会について、御連絡させていただく。次回の開催は9月頃を予定している。

内容については次期産業振興計画の策定作業として、素案のたたき台をお示しし、ご意見を賜りたいと考えている。開催日等については、調整の上で改めてご連絡をさせていただきたいのでよろしくお願いする。

【竹谷会長】

他に何か御意見、御質問等はあるか。無いようなのでこれをもって、令和6年度第1回習志野市産業振興審議会の会議を閉会する。皆様におかれては、長時間ありがとうございました。